持続可能性とグローバル補助金

グローバル補助金は、6 つの重点分野のいずれかに関連し、長期的な成果をもたらす大規模な活動を支援するものです。クラブと地区は独自のグローバル補助金活動を開始できるほか、協力組織と合同でロータリー財団が立案した長期的なプロジェクトを支援するパッケージ・グラントの提唱者となることもできます。活動が長期的に持続可能であること、またその成果が測定可能であることは、グローバル補助金の条件です。

持続可能性とは何か

ロータリー財団は、「持続可能性」を、「補助金資金がすべて使用された後にも、地域社会の継続的ニーズを満たすために、プロジェクトがもたらした影響を長期的に持続できること」と定義しています。

ロータリー財団の「持続可能性の原則」とは何か

財団は、プロジェクトや活動に「持続可能性」の要素を取り入れる際の指針としてロータリアンが参考にできるよう、持続可能性の原則を定めました。8 つの原則があり、それぞれ実践例が以下に挙げられています。

1) グローバル補助金は、ロータリー財団の資金がすべて使用された後にもプロジェクトがもたらした影響を持続していくための活動と対策を組み込んだものとすること。

> ロータリアンが水・衛生プロジェクトを立案、実施し、利用者に小額料金を払ってもらう。これによって水システムのメンテナンスを継続的に行っていくための資金が得られると同時に、地元の人々がプロジェクトを自分たちのものであると自覚し、長期にわたって資金が投資されていくようになる。

2) グローバル補助金は、多様なレベルでの持続可能性を目指して取り組むものであること。

リソース	水プロジェクトを立案するロータリアンは、入手しやすいリソースを用いた技術がプロジェクトに採用され、地元の環境が破壊されないよう確認する。
経済	補助金資金がすべて使われた後にも引き続き資金が確保され、維持と必要な修理を行っていくことができるようにする。
文化	意思決定プロセスに関わるべき地元の役人や有力者に参加してもらうことによって、文化的な慣習を考慮に入れる。
社会	男女の役割や、プロジェクトにおける適切な男女の参加方法など、社会的規範を考慮に入れる。

3) グローバル補助金は、可能な限り、地元のリソース、地域内の考え方や意見、現地の人々の知識を最大限に活用するものであること。

> 農村部においてロータリアンが母子の健康プロジェクトを立案、実施し、伝統的な方法を用いる産婆に参加してもらうことにより、従来の治療法や対処法に加え、新しい医療のアプローチを取り入れることができる。地元に伝わる伝統的な方法が尊重されていると知れば、新しい技術を地元の人々に受け入れてもらえる可能性が高まる。

4) グローバル補助金は、天然資源基盤を大切にし、現地の環境を悪化させたり、破壊したりしないものであること。

零細事業を対象とした小事業開発プロジェクトをロータリアンが計画する際には、支援する事業が、生産工程において持続可能な（環境にやさしい）物資を使い、環境汚染の原因とならない製品やサービスを提供するよう確認する。

5) グローバル補助金は、最大数の人々に恩恵を与えようと努めるものであること。

マラリア予防プロジェクトをロータリアンが立案する際、蚊帳を配布する地域として、感染リスクの高い人々が多く住む地域、あるいは蚊帳が不足している地域を選ぶようにする。

6) グローバル補助金は、財団の重点分野に関連する職業分野における画期的な新手法に貢献できるよう、奨学生やその他の人々を養成するものであること。

基本的教育および識字率向上プロジェクトをロータリアンが立案し、成人の読み書き教授法を学ぶ奨学生を支援する。奨学金の申請者と面接を行って重点分野の目標について話し合い、留学と将来のキャリアが、これらの目標とどのように関連するかを説明してもらう。

7) グローバル補助金は、自らが働く地域社会や職業に大きな影響を与え、効果を高められるよう、プロジェクトに参加する人々を養成するものであること。

経済および地域社会開発プロジェクトを立案し、零細事業の運営方法を教える職業研修チームを発展途上国に派遣する。教えられた知識が大勢の人々に伝授されるよう、研修カリキュラムには「研修提供者を育成するための研修」も盛り込む。さらに、研修に参加した人が、学んだ知識を実際に生かすよう確認する。

8) グローバル補助金は、ロータリー地域社会共同隊など、草の根の人々や団体の意見やスキルを生かし、プロジェクトと活動の継続性を図るものであること。

プロジェクトに対する地域社会の人々の関心を高めるために、ロータリー地域社会共同隊メンバーの力を借りる。さらに、継続的な監視と評価が行われていくよう、共同隊に現地での活動に協力してもらう。